

IV-2 各種プロジェクトの内容と進行経過

ここでは、IV-1-3で名付けを行ったプロジェクトを一つのまとまりとして取り上げ、プロジェクトごとにその目的、内容と進行経過および最終的に得られたプロダクトについて報告する。

IV-2-1 「情報・資料収集管理」プロジェクト

1. 目的

所沢センターは帰国者教育の中で、外部からの問い合わせや相談の窓口的役割を果たさなければならない立場にあり、組織内外からの情報・資料へのアクセスを容易にし、リソース・センター的機能を果たすための基礎作りとして、次々に生み出される情報・資料の収集や管理体制を改善する必要性があった。

(1) 情報・資料処理のシステム化

状況分析のための情報、学習者に関する情報、時間割・教案・教材等の学習計画に関する情報の処理、および評価等のための情報処理をシステム化する

(2) システムに則った情報・資料の整備

状況分析のための情報・資料の整備を進めるに当たって、これまでの問題点を改善し、より利用しやすい環境に整えるために、資料の新しい分類化作業や配置計画を進める

2. 内容と進行経過

期	(内 容)
39	○資料室整備 ・ 図書、資料の分類案作成
40	○資料室整備 ・ 図書、資料の分類案試行 ・ センター内発生資料のPC（パーソナルコンピュータ）によるデータベース作成とデータの分類 ・ 資料の配置計画作成 △入退所者のデータベース整理 ・ 入退所者データベースの枠組み再検討 ・ 上記枠組みによるデータ集計、統計資料作成 □その他 ・ 修了評価入力および修了書類印刷のプログラム作成およびその実用化 ・ 各種プロジェクトチームのデータベース作成および利用面でのサポート ・ テスト（「日本事情」テスト）結果入力のサポートおよび結果の集計
41	△入退所者のデータベース整理

	<ul style="list-style-type: none"> ・データの集計および統計資料の作成継続 ・退所後の小中学編入データの補充調査実施および整理 ※年齢、学年別編入状況、編入条件の比較
42	<ul style="list-style-type: none"> ○資料室整備 ・分類基準見直し
43	<ul style="list-style-type: none"> ☆文書分類枠の整理 ・新分類枠による現存資料の再整理
44	<ul style="list-style-type: none"> ☆文書分類枠の整理 ・各分類の下位項目決定 ・重要資料の抽出 ・重要資料の取得法（資料名、発行所、資料更新時期等）調査 ・重要資料検索システム計画作成 ○資料室整備 ・図書の新分類案作成
45	<ul style="list-style-type: none"> ◇新情報資料管理システム運用開始 ・情報資料（図書・文書・PCデータ）の管理システム作成および運用 ・重要資料検索マニュアル作成 ・重要資料更新時期・更新方法のマップ作成 ・センター内発生資料の整理・管理方法の検討 ○資料室整備 ・新分類による「資料室」運営

3. プロダクト

- 学籍データベースおよび各種統計資料（出身省別入所者数、就学年数別人数等）
- 定着状況データベース（定着地名、身元引受人名等修了生の定着後の生活に関する情報）
- 退所後の編入学状況データベース（編入学校・学年）
- 機関および個人ネットワーク・データベース（ネットワーク構成者単位となる中国帰国者教育に関係する機関・団体・グループ・個人の名称、所在地等）
- 資料管理マニュアル（資料分類、資料管理フローチャート図等）【資料101】
- 図書・文書新分類枠【資料102】
- 文書管理マニュアル（入手資料のうち文書の分類整理のマニュアル）
- 「重要資料ナビゲーター」（最重要資料の検索マニュアル）
- 重要資料更新スケジュール表
- 上記重要資料更新の手引（重要資料の更新マニュアル）

● P C データ更新スケジュール表

IV-2-2 「指導者間相互支援ネットワーク作り」プロジェクト

1. 目的

全国各地の中国帰国者教育・支援に関わる指導者や指導機関が相互に情報を交換し、それを通じて創造的に新たな情報や指導資源を生み出していけるような指導者間相互支援ネットワークを形成し、帰国者教育・学習支援の全体的質の向上を目指すとともに、本プロジェクトの活動を通して、所沢センターのネットワークカーとしての成長を目指す。

帰国者の受け入れとその後の生活支援は現在様々な課題を抱えている。その解決のためには、指導および指導者の質の向上や生活の各領域における支援の拡張といった帰国者に対する直接的支援の向上だけではなく、帰国者の生活する生涯的な学習環境であるところの地域社会自体をより開かれた支援的なものにするための働きかけが重要となる。このような全国的な地域社会の変容の鍵となるのはネットワークの形成である。ネットワークには、様々な分野やタイプ、またシステムのものがあるが、まずは、地域の学習支援の中心となる指導者が平等な立場で相互に指導情報を発信・受信するためのネットワークの形成または拡張が急務と考えた。このネットワーク作りの活動をしっかりと継続・発展させていくためには、ネットワークをサポートすることを正式な業務の一つとして行っていくリソース・センター的な存在が必要となる。所沢センターでは従来よりこのリソース・センター的機能を一部担ってはいたが、この業務をより明確に位置づけ計画的に実現させようとしたものが本プロジェクトである。

- (1) 所沢センターにおける実践と研究の記録としての『紀要』を発行し、よって帰国者教育また広く日本語教育、第二言語教育、また異文化間教育の分野にこれを発信し、情報交換を行うとともに、所沢センター外部の帰国者教育に関わる指導者・支援者に研究発表の場を提供する
- (2) 全国の中国帰国者教育・支援に関わる指導者が相互に情報を発信・受信する媒体としての通信紙（ニューズレター）の創刊・発行を通し、指導者間相互支援のためのネットワークを形成し、帰国者教育全体の活性化及び教育の質の改善をはかる
- (3) 所沢センター修了後の二次的教育機関（自立研修センターや学校教育機関等）や自治体等の支援者との連携をいっそう強化すべく、「修了書類」（修了生評価等）の内容を改訂するとともに、連絡の方法（時期、ルート等）についてもこれを検討し改善する
- (4) その他、所沢センターに寄せられる各種問い合わせや研修会・講習会への協力依頼に対する対応、また関係機関や教室との相互訪問や見学および意見交換会の実施等を通し、相互の情報交換を行うとともに、新たなネットワーク形成の土台を構築する

2. 内容と進行経過

期	(内 容)
39	○『紀要1号』発行 △ネットワーク形成のためのデータベース作成（紀要発送先）
40	□ニューズレター発行の基本計画立案 ・発行目的の明確化、編集方針の検討
41	△ネットワーク形成のためのデータベース作成（ニューズレター発送先）
42	○『紀要2号』発行 □ニューズレター発行準備 ・編集の枠組み、取材計画の決定 ・配付先／発行部数／発行時期／発行形式の決定 ・創刊準備号の取材と編集
43	□ニューズレター創刊準備号発行 ☆修了書類改訂① ・これまでの修了書類の検討、問題点の整理 ・修了書類担当部署間協議、改訂の方針決定 ・方針に基づく改訂作業 ・新修了書類作成マニュアルの作成、新修了書類による修了評価の実施 ○紀要編集方針の検討、合評会の企画・実施
44	△ネットワーク形成のためのデータベース補充システムの検討・実施 □ニューズレター創刊号『同声・同気1号』編集・発行
45	○『紀要3号』発行 □ニューズレター『同声・同気2号』編集・発行 ☆修了書類改定② ・配布ルート及び配布時期についての問題点の検討 ・新送付文書（「中国帰国者二世三世の中学高校入学・編入学に関する問題について」）の作成と配布 △ネットワーク形成のための状況分析計画作成（外部からの問い合わせ等情報交換記録のデータベース化フォーマット作成）

3. プロダクト

- 『中国帰国孤児定着促進センター紀要 1号』（1993年）
- 『中国帰国孤児定着促進センター紀要 2号』（1994年）
- 『中国帰国孤児定着促進センター紀要 3号』（1995年）
- 紀要原稿募集と編集方針について（課内研修会資料）

- ニューズレター 創刊準備号 (1994年8月)
- ニューズレター『同声・同気創刊号』(1995年1月)
- ニューズレター『同声・同気 2号』(1995年3月)
- 指導者間ネットワーク・データベース ※機関・個人合計約1500件(1995.3月現在)
- 上記 データベース用入力シート
- 外部からの問い合わせ等情報交換記録データベース用入力シート
- 修了書類分類一覧表
- 修了書類「当センターの指導の概要」「指導内容と評価」「修了生データ」
例：大人コースFクラス／子供コースVクラス【資料201】
- 上記 添付書類「中国帰国者二世三世の中学高校入学・編入学に関する問題について一実状のご紹介と参考意見一」

IV-2-3 「修了生追跡調査」プロジェクト

IV-2-3-A 「青年二世進路調査」プロジェクト

1. 目的

青年クラス修了生が持っている来日時の条件や定着地の条件と日本での実際の進路選択との間の相関関係を把握整理して、今後の指導に役立てる。

2. 内容と進行経過

期	(内 容)
39	○調査計画作成 ・調査項目の決定 ・調査法の選択 ・調査対象者の選択 ○パイロット調査実施 ○パイロット調査後の手直し
40	○本調査実施 ○調査結果の分析

3. プロダクト

- 青年二世進路アンケート（選択式と記述式併用のもので、質問内容は、修了時の希望／現在の希望／進路相談した相手およびその内容／修了後から現在に至るまでの経緯等である）
- 青年二世進路調査報告書抄録【資料301】
※詳細は玉居子「青年二世進路調査報告」（1994）P.71~P.94,『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第2号参照,中国残留孤児援護基金

IV-2-3-B 「小中学生クラス修了生の進路調査」

1. 目的

- (1) 所沢センター子供クラス修了生の退所後の進路状況、主に学校編入状況について調査することによって、学校編入の現状を分析考察する
- (2) 中学校編入後、どのような学習資源（人的資源）（以下学習リソースおよび人的リソース）を得ているか、人的リソースの違いにより、援助機能はどのような性質を持って働いているのか、ライフコースに影響しているのかを考察するために、事例研究を行う

2. 内容と進行経過

期	(内 容)
41	○学校編入状況調査（第1次調査）計画作成 ○上記調査実施および調査結果の分析
42	○人的リソース調査（第2次調査）計画作成 ・調査項目の決定 ・調査法の選択 ・調査対象者の選択
43	○上記調査実施および調査結果の分析

3. プロダクト

●小中学生クラス修了生の進路調査報告書抄録【資料302】

※詳細は隈井・佐久間「小中学生クラス修了生の学校編入の現状」（1994）

P95~P108, 『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第2号, 中国残留孤児援護基金

●中学生クラス修了生学習リソース（人的リソース）調査報告書抄録【資料303】

※詳細は寺村・佐久間「事例研究：人的リソースの利用状況—中国帰国生徒の場合—」（1995）P128~P141, 『中国帰国者定着促進センター紀要』第3号, 中国残留孤児援護基金

IV-2-3-C 「非識字者を含む大人クラス修了生の生活状況調査」

1. 目的

非識字者の場合、所沢センター修了後、日常生活の行動をどの程度自力でこなし、どの程度周囲の人の助けを借りているか。所沢センターの指導目標改善のため、非識字者を中心に大人修了生の生活の実状を調査する。

2. 内容と進行経過

期	(内 容)
---	-------

41	<ul style="list-style-type: none"> ○調査計画作成 <ul style="list-style-type: none"> ・調査項目の決定 ・調査法の選択 ・調査対象者の選択 ○上記調査実施および調査結果の分析 ○補充調査計画・実施
----	--

3. プロジェクト

●非識字者を含むセンター修了生家庭への訪問調査報告書抄録【資料304】

※詳細は児玉・内藤「非識字者を含むセンター修了生家庭への訪問調査報告」（1995）
P39~P60, 『中国帰国者定着促進センター紀要』第3号, 中国帰国孤児援護基金

IV-2-4 「〈大人・青年コース〉目標設定」プロジェクト

1. 目的

コース・デザインの方法による『〈大人・青年コース〉指導項目表』（中国帰国孤児定着促進センター指導課, 1987）に基づく教育計画の限界を乗り越え、新たな教育体系の構築を目指そうとするカリキュラム開発の要となる目標設定の領域において、モデルとなるクラスタイプ別目標構造表を作成し、よってカリキュラム開発の基礎を築くとともに、この構造表に基づく教育実践を通して所沢センターの教育改善をはかる。

- (1) プレイメントテストに基づく学習者タイプ特定の基準を見直し、新たなクラスタイプ（以下タイプ）定義を行う
- (2) センターにおける〈大人・青年コース〉の教育理念を再考し、「理念的目標」を操作的に定義された「達成目標」へと構造化する（「目標構造表」プロトタイプおよびタイプ別「目標構造表」モデルの作成）
- (3) タイプ別「目標構造表」モデルに基づくクラス運営を実施しその結果を構造表にフィードバックするとともに、「構造表」によりプログラム設計された「モデル時間割」を作成する
- (4) タイプ別「目標構造表」モデルおよび「モデル時間割」をもとに、各クラスがクラス別「目標構造表」を作成し、これに基づくクラス運営を行う

2. 内容と経過

期	(内 容)
	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスタイプの定義化及びそのクラスにおける学習者タイプの特定 ○タイプ別理念的目標の設定 ○暫定版タイプ別目標構造表作成 (ACDFIMNタイプ-ver.0)
36	<ul style="list-style-type: none"> ○タイプ間の突き合わせによる構造表フォーマットの修正・統一化 ○タイプ別目標構造表作成 (ACDFIMNタイプ-ver.1) ○タイプ間調整・改定
37	<ul style="list-style-type: none"> ○クラスタイプ再定義 ○タイプ別目標構造表 (ver.1) によるモデル時間割作成 (ACDFIMNタイプ) ○モデル時間割試行およびユニット・プログラムの開発・試行 ○ 上記 実行上の問題点の分析
38	<ul style="list-style-type: none"> ○タイプ別目標構造表の妥当性および実用性の検討 ○理念的目標及び目標構造化の原理の再検討 ○目標構造表プロトタイプ作成 (ver.2)
39	○タイプ別目標構造表改定 (Iタイプ-ver.2)
40	<ul style="list-style-type: none"> ○タイプ別目標構造表改定 (Fタイプ-ver.2) ○モデル時間割による状況分析 ○クラス別目標構造表作成 (大人・青年コース全クラス) ○カリキュラム・モデル作成 (ACDFIMNタイプ) ※目標構造表に基づく時間割、ユニット・プログラム、教案、教材等の記録
41	○タイプ別目標構造表改定 (AFMNタイプ-ver.2)
42	○タイプ別目標構造表最終改定 (AFIMNタイプ-ver.3)

3. プロダクト

●大人・青年コースにおけるクラスタイプ定義概要【資料401】

※詳細は、「中国帰国者に対する日本語教育のカリキュラム開発に関する調査研究—調査研究の経過と今後の計画—」(1993), 平成4・5年度文化庁日本語教育研究委嘱

●「目標構造表」の構成と考え方について(解説)

※詳細は、佐藤・小林(1994)「カリキュラム開発および理念的目標の構造化について」P.14~P.17, 『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第2号, 中国残留孤児援護基金

●「目標構造表」プロトタイプ(ver.2)および解説

※詳細は、佐藤・小林（1994）「カリキュラム開発および理念的目標の構造化について」P.17～P.21、『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第2号，中国残留孤児援護基金

●タイプ別目標構造表（A F I M Nタイプ-ver.3）

例：Aタイプ（大人）-ver.3／Fタイプ（大人）-ver.3／Nタイプ（青年）-ver.3

【資料402】

●モデル時間割（A C D F I M Nタイプ）

●カリキュラム・モデル（A C D F I M Nタイプ）

IV-2-5 「〈子供コース〉目標設定」プロジェクト

1. 目的

所沢センターにおける〈子供コース〉の教育理念を再考し、「理念的目標」を操作的に定義された「達成目標」へと構造化する（タイプ別「目標構造表」モデルの作成）

2. 内容と経過

期	(内 容)
38	○クラスタイプの特定 ○モデル時間割（中学生クラス Vタイプ）の作成 ○モデル時間割試行及びユニット・プログラムの開発・試行
39	
40	○タイプ別目標構造表作成（Vタイプ-ver.0） ○ 上記 構造表に基づくクラス運営試行
41	○タイプ別目標構造表改訂（Vタイプ-ver.1） ○ 上記 構造表に基づくクラス運営試行
42	
43	○タイプ別目標構造表作成（小学生クラス Qタイプ-ver.0） ○ 上記 構造表に基づくクラス運営試行
44	○タイプ別目標構造表改訂（Qタイプ-ver.1） ○ 上記 構造表に基づくクラス運営試行

3. プロダクト

●モデル時間割（中学生Vタイプ）

●タイプ別目標構造表（中学生Vタイプ-ver.1）【資料501】

●タイプ別目標構造表（Vタイプ-ver.1）解説

※詳細は 池上（1994）「日本語教育が必要な児童生徒対象の教育目標構造化の試み

ーセンター中学生クラスを例に一」P.33～P.43, 『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第2号, 中国残留孤児援護基金

●タイプ別目標構造表(小学生Qタイプver.1) 【資料502】

IV-2-6 「〈帰国婦人コース〉カリキュラム開発」プロジェクト

1. 目的

- (1) 〈帰国婦人(中国残留婦人)コース〉開設に向けて、婦人データ(帰国婦人の特質、帰国後の生活状況等)を収集、分析する。
- (2) 学習者タイプを特定し、タイプ別目標構造表およびプログラム設計表を作成する。

2. 内容と進行経過

期	(内 容)
39	<ul style="list-style-type: none"> ○状況分析調査計画作成 <ul style="list-style-type: none"> ・調査対象者、調査項目の決定 ・調査法の選択 ・研究設問立案 ・インフォーマント選定 ・インフォーマントに関する情報収集 ・調査計画の立案 ・面接計画の立案 ・面接計画の試行
40	<ul style="list-style-type: none"> ○パイロット調査実施 ○パイロット調査後の計画の手直し ○本調査実施 ○調査結果の分析
41	<ul style="list-style-type: none"> △暫定的目標設定・プログラム開発 □「1～2期帰国婦人クラス」プログラム実施 <ul style="list-style-type: none"> ※「帰国婦人」の突然の帰国に伴い、「1期帰国婦人クラス」を開設し、カリキュラムを作成実施した。 ○状況分析補充調査計画作成 <ul style="list-style-type: none"> ・調査計画の立案 ・面接計画の立案 ○調査実施および調査結果の分析 ○「1～2期帰国婦人クラス」学習者データの収集・分析 <ul style="list-style-type: none"> ・フェイスシートのデータ聴取

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 帰国時日本語能力調査 ・ 日本事情プレイスメントテスト ・ 学習者タイプの特定基準設定
42	△〈帰国婦人コース（2か月版）〉の目標設定およびプログラム開発
43	□「3～7期帰国婦人クラス」プログラム実施
44	
45	<ul style="list-style-type: none"> □「8～9期帰国婦人クラス」プログラム実施 ○「3～9期帰国婦人クラス」学習者データの整理および分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ フェイスシートデータ整理 ・ 学習者タイプの特定基準の見直し △タイプ別目標設定・プログラム開発

3. プロダクト

- 〈帰国婦人コース〉カリキュラム開発のための状況分析調査報告書抄録【資料601】
※詳細は平城「カリキュラム開発のための状況分析調査報告」（1994）P28~P69, 『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第2号, 中国帰国孤児援護基金
- 〈帰国婦人コース〉目標構造表およびプログラム設計表（2か月版）【資料602】
- 〈帰国婦人コース〉タイプ別目標構造表およびプログラム設計表暫定版（4か月版）

IV-2-7 「大人Fタイプ・青年Iタイププログラム開発」プロジェクト

1. 目的

- (1) 具体的目標群（目標構造化プロジェクトで抽出した4か月で達成すべき目標）のすべてを達成するためのプログラム設計表を大人Fタイプと青年Iタイプについて開発する
- (2) 各プログラムの指導時期、授業コマ数等の全体的バランスを検討してプログラム配置図を作る
- (3) Iタイプ・Fタイプをモデルとして、他のタイプのプログラム開発を進める

2. 内容と進行経過

期	(内 容)
40	<ul style="list-style-type: none"> ○タイプ別目標構造表（Iタイプ）を使ったユニット・プログラム¹⁾開発プロセスの研究 <ul style="list-style-type: none"> ・ プログラム設計手順の検討²⁾ ・ プログラム設計試行
41	<ul style="list-style-type: none"> ○Iタイプのジャンル別ユニット・プログラム作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史プログラム／情報収集プログラム／日本語学習法プログラム／学習

	技能プログラム／学習課題プログラム △基本文型・表現リスト作成（Mタイプ）
42	○カリキュラム全体のバランスの検討 ・Iタイプ・Fタイプのプログラム配置案 ³⁾ 作成
43	○Iタイプ・Fタイプの全体プログラム設計表作成 ⁴⁾ ・実施・修正 ・プログラム設計表のフォーマット決定
44	・プログラム単位の決定 ・全プログラムについて概要（プログラムの骨組み）作成 ・該当クラスの実際の進行に合わせて、各プログラムの細部（学習内容活動の進め方等）を作成の上、実施 ・修正と補充を行い完成 ○プログラム配置案と目標構造表の修正、完成 ⁵⁾ △他タイプによる応用 ・プログラム配置図作成（AMNタイプ） ・ジャンル別プログラム設計試行 ・ジャンル別プログラム設計表作成
45	△他タイプによる応用 ・ジャンル別プログラム設計表および教材の作成

（注）

- ¹⁾ ユニットプログラムとは目標構造表の中の達成目標を単位としたプログラムを指す。
- ²⁾ ユニットプログラムの設計に先立ち、以下のように手順を定めた。
- ① 目標分析を行う（達成目標の下位項目としての細目標を立てる）
 - ② 上記①の細目標を達成目標に至るまでの流れにする
 - ③ ②の流れを授業コマ単位で区切る
 - ④ 細目標下の学習項目を洗い出す
 - ⑤ 学習項目の提出順を考える
 - ⑥ それぞれの学習活動を特定する条件（活動タイプ／授業コマ数／使用言語／使用教材等）を考える
 - ⑦ プログラムの全体をフォームに従って図式化する
 - ⑧ 教案モデル・教材作成
- ³⁾ 中目標と小目標ごとに、4か月における指導時期、必要授業コマ数を算出し、全体的バランスを調整の上、プログラム配置案を示した。
- ⁴⁾ 全体プログラム設計プロジェクトは、2名の作成担当者が各々Fタイプ、Iタイプのプログラム原案を作成し、週1回の会議でアドバイザー1名とともに改良を加えた。プログラム単位の

決定や各プログラムの骨組み作りにあたっては、①学習者側から見てわかりやすい、②活動としてまとまりやすい、③教師側にとって指導しやすい、以上3点を念頭において行った。

〈具体的な手順〉

- ・ 先ず基本フォーマットを決定後、プログラム単位を検討した。達成目標のうち実行上関連性の高いもの（例えば、実習を中心にプログラムをまとめる場合など）については一つのプログラムの中で複数の目標を達成する複合プログラムとし、それ以外のものは小目標単位または達成目標単位のプログラムとすることにした。
 - ・ 次に各目標毎に骨組み（指導の流れに沿ってプロセス目標をスローガンの的に示したもの）を固め、学習内容、コマ数、指導活動の進め方等を記した。該当クラスにおいてプログラムを実行し、そのフィードバックを受けて若干の修正を加えた。
- ⁵⁾ 修正後の全プログラムに基づき、プログラム配置案にも修正を加え最終版とした。なお目標構造表にも若干の修正を行った。

3. プロダクト

● Fタイププログラム構成一覧【資料701】

● Fタイププログラム設計表（全プログラム）

例：「交通・消費生活プログラム設計表」「話題コミュニケーションプログラム設計表」【資料702】

● Fタイプ語彙表現リスト

● Fタイプ基本文型・表現リスト

● Fタイプ時間割

例：第6週目時間割【資料703】

● Fタイププログラム配置図【資料704】

● Iタイププログラム構成一覧

● Iタイププログラム設計表（全プログラム）

● Iタイプ語彙表現リスト

● Iタイプ基本文型・表現リスト

● Iタイプ時間割

● Iタイププログラム配置図

● Mタイプ基本文型・表現リスト

● Mタイププログラム配置図

● Nタイププログラム配置図

● Aタイププログラム配置図

● Jタイプ「前期中期における電話プログラム設計表」

● Fタイプ「中期における話題コミュニケーションプログラム設計表」

● Aタイプ「日本語知識プログラム設計表」

- Bタイプ「語彙表現プログラム設計表」
- Cタイプ「語彙表現プログラム設計表」
- Dタイプ「語彙表現プログラム設計表」
- Mタイプ「動詞文プログラム設計表」
- Nタイプ「語彙表現プログラム設計表」
- Hタイプ「語彙表現プログラム設計表」
- Kタイプ「語彙表現プログラム設計表」
- 「社会福祉・手続きプログラム設計表」 および絵入り教材

IV-2-8 「ボランティア参加型学習活動のプログラム開発」プロジェクト

1. 目的

- (1) 「ボランティア参加型学習活動」は、地域の日本人ボランティアと所沢センターの学習者との交流を目的とする学習活動として、ここ数年来行われているプログラムである。日本人参加者が教師の代行やアシスタントとしてではなく、地域の一日本人として学習者と交流し、双方が言葉の障壁があっても何とかコミュニケーションをとろうとしていく過程を重視したプログラムであり、所沢センターの教育における典型的な体験学習の一つとして位置づけられるものである。これまで行われてきたボランティア参加型学習活動（以下「実習」とも言う）の目的と内容、計画と実施等、過去のプログラムの実態の検討を通して新しいプログラム評価のシステムを開発し、よってプログラムの改善をはかる
- (2) 本プログラムにおける日本人ボランティアの参加を促進するために、所沢を中心とした周辺地域とのネットワークを強化しその拡大と維持をはかる

本プログラムにおけるネットワークとしての活動には、新たな日本人参加者の開拓と、すでに参加を経験した個人もしくは組織との関係性の維持・発展という二つの大きな課題がある。前者は、一回限りの参加であっても一人でも多くの日本人に、地域における所沢センターまたは中国帰国者の存在を知ってもらい彼らとの交流を体験してもらうことが目的となるが、本プロジェクトではその手段として、所沢を中心に、地域の広報やミニコミ紙、また社会教育活動等の既存の情報メディアやネットワークを通してボランティアを募集するという方法を試みた。後者については、継続参加者のうち特にその参加が長期にわたる団体や機関を中心に、その代表者と所沢センター側との話し合いの機会を設け、双方の協議のもとに参加の形態やプログラムの内容についての見直しをはかり、新たなプログラムを開発することを試みた。本プログラムは学習者にとっての学習活動として計画されるものであるが、それが同時に相手側日本人にとっても学習の機会となること、すなわち地域における学習者と日本人との相互学習の場として機能することも目指すものであった。したがって、こうした話し合いを通して、双方の目的意識のずれを調整し、相手側の団体にとっても有意義なプログラムとすべく協議を重ねるプロセスは、プログラム改善の面で、またわれわれのネットワークまたはコーディネーターとしての成長の面でも、非常に重要なものと考えた。

- (3) これまで行われてきた本プログラムにおける日本人ボランティアの供給方法について検討し、募集・登録・登録されたデータのメンテナンス・実習への供給・参加の記録等の効率的システムの確立を目指す

2. 内容と進行経過

期	○プログラム開発
37	プログラム開発期
38	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア参加型学習活動一覧作成 ・ボランティア参加型学習活動の流れ全体図作成 ・担任評価表ver. 1の作成と使用 ・ボランティア評価表ver. 1の作成と使用 ・学習者によるプログラム評価は各クラス毎に実施
39	プログラム検討期
40	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容の見直し（座談会等の回数の検討） ・担任評価表ver. 2の作成と使用 ・実習後のボランティアと担任との感想会の実施
41	プログラム定着期
42	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者評価表統一版ver. 1の作成と使用 ・担任評価表ver. 3の作成と使用（ver. 2の簡略版） ・地域ボランティア団体参加の「趣味講座」²⁾開催
43	プロジェクト終了に向けて準備期
44	<ul style="list-style-type: none"> ・実習後感想会想定問答集案作成（担任用） ・「趣味講座」実施マニュアル作成（係り用）
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者評価表ver. 3の作成と使用 ・学習者評価システム及び質問紙見直しのための調査実施

△地域とのネットワーク形成	□ボランティア参加システム化
<ul style="list-style-type: none"> ・ 継続実習参加の地域ボランティアとのミーティング開始 ・ 継続実習参加グループの中国語専門学校の学生との今後の実習参加システム作り ・ 地域ボランティア団体との「新人実習」¹⁾の開催 ・ 地域ボランティア団体への実習の目的と参加の心構え等についての説明（団体機関紙への寄稿等） ・ 継続実習参加の大学生等のグループとの関係づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「実習参加のしおり」作成（実習初回参加者配布用） ・ ボランティアリスト・データベース化 ※データベースのフォーマットの作成 入力・新情報の追加等 ・ ボランティア実習参加のシステム作り（担任用）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での実習参加ボランティア募集 ・ 地域ボランティア団体参加方法の改善（「趣味講座」の参加枠を作る等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアリスト・データベース用「ボランティア登録用紙」作成 ・ 「待ち合わせ実習」参加マニュアル作成（ボランティア用）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の中学校PTAの実習参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初回参加者に対する説明会用マニュアル作成（係り用） ・ 「新人実習」「趣味講座」参加システムの改良
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「趣味講座」参加システムの改良
	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティアリスト・データベース入力のマニュアル化 ・ ボランティアリスト・データベースのメンテナンス作業 ・ 中国語を必要とするボランティアの紹介リスト³⁾の作成

(注)

¹⁾ この「地域ボランティア団体」は会員数が多く、実習参加の回数にかなりの開きがあるメンバー同士が同一のプログラムに参加することからくる問題がいくつか生じていた。そこで、参加経験が三回以上の者とそれ以下の者との分け、前者については「趣味講座」という新しく開発さ

れたプログラム（注2）参照）に参加してもらい、後者については従来の形態でのプログラムを「新人実習」と名付けそれに参加をしてもらうことを同団体との協議で取り決めた。また、「新人実習」では、同団体以外の地域のボランティア希望者（初参加者）にも同時に参加してもらい、同団体の新会員獲得の機会としても活用してもらうこととした。「新人実習」では、参加の心構え等を実習前後に研修会形式で丁寧に説明し本プログラムの意義をよく理解した上で実習を体験してもらうことをねらった。

2) 本プログラムにおける日本人ボランティアの参加は、原則として中国語が分からないことが条件となっているが、この「地域のボランティア団体」は中国語ができる会員が多く、そうした会員間からかねてより実習参加の強い希望が出されていた。当団体は、所沢センター開所当初からの支援団体であり、また所沢センターの学習者との交流を会の中心的活動に据えていることもあり、何とか学習者にとっても団体会員にとってもプラスとなるようなプログラムは開発できないかと考えた結果試みられたのが「趣味講座」である。「趣味講座」は、所沢センターの学習者が講師となり、中国の文化（中国語、中国の歌、料理、水墨画、気功等）を日本人に教授するという活動であるが、従来のプログラムとは異なり、学習者が中心となって活動を計画する、交流の際の使用言語にはこだわらないという方針で行うこととした。

3) 所沢センターには中国語を用いてのボランティアの申し出も少なからずよせられる。現在の実習参加の原則ではこれは受け付けられないが、帰国者や中国に関心を持つこうしたボランティアの支援は貴重なものと考え、所沢センター以外でその意思を活かすことができる場の紹介リストを、本プロジェクトの一環として作成することとした。リストは、中国語圏から来た人や帰国者の支援にあたっている団体やグループを紹介したもので、これまで登録されたボランティアリストの中で中国語のできる者と、ボランティアを希望してくる中国語の堪能な者に対し、本プログラムの事情を説明の上、このリストを送付することにしたものである。

3. プロダクト

● ボランティア参加型学習活動一覧【資料801】

● ボランティア参加型学習活動の流れ全体図【資料802】

※【資料801】【資料802】の詳細及び解説については、佐藤・馬場・安場（1993）「実践報告：ボランティア参加型学習活動」『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第1号、中国残留孤児援護基金

● 外部実習協力者要請等に関する覚え（担任用：協力者要請からフィードバックまでの手順と留意事項等実習計画マニュアル）

● ボランティアの方の参加について（担任用：初回参加ボランティアに対する説明会用マニュアル）

● 実習当日手順表（実習担当教授者用）

● 「趣味講座」実施マニュアル（実習担当係り：教授者用）

● ボランティア参加型実習係業務一覧（実習担当係り：教授者用）

- 担任評価表ver.3（担任によるプログラム評価用紙）【資料803】
 - ※教授者（担任）によるプログラム評価の詳細は、佐藤・馬場・安場（1993）「実践報告：ボランティア参加型学習活動」『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第1号，中国残留孤児援護基金／佐藤他（1992）「異文化適応教育におけるボランティア参加型活動のプログラム評価にむけての実践的研究」国立国語研究所日本語教育センター日本語教育現職者特別研修研修レポート
- ボランティア評価表ver.2（ボランティアによるプログラム評価用紙）【資料804】
 - ※ボランティアによるプログラム評価の詳細は、安場・馬場（1994）「日本人ボランティアと学習者との交流活動プログラム活性化のための事例研究ーボランティアの視点からー」／馬場・安場（1994）「センター支援団体と学習者との交流活動プログラムの活性化のための実践報告」『中国帰国孤児定着促進センター紀要』第2号，中国残留孤児援護基金
- 学習者評価表ver.3（学習者によるプログラム評価用紙）【資料805】
 - ※学習者によるプログラム評価の詳細は、安場・馬場（1995）「学習者ー日本人ボランティアの交流活動プログラムにおける学習者評価の可能性」『中国帰国者定着促進センター紀要』第3号，中国残留孤児援護基金
- 参加ボランティア募集ポスター、広告、ちらし
 - ※所沢周辺地区の公民館、郵便局・図書館等公共施設、地域ミニコミ紙・広報紙、ケーブルテレビ等で募集
- ボランティア登録用紙（ボランティア・データベース用入力シート）
- ボランティアリスト・データベース 約200件（1995年3月現在）
- 上記 入力マニュアル
- 実習参加のしおり（参加ボランティア用事前配布資料）
- 「待ち合わせ実習」参加マニュアル（参加ボランティア用事前配布資料）
- 中国語を話せる、又は、中国に興味があるボランティア募集機関・団体リスト（ボランティア希望者に対するセンター以外のボランティア先を紹介する時の資料）